

平成29年度 まちづくり懇談会

宮川地区会場の要旨

平成29年11月16日（木） 19:00～20:55

宮川地区コミュニティセンター 参加者 101名

市長：皆さんこんばんは。八ヶ岳も真っ白になりまして、いよいよ冬の到来でございます。皆様には大変お寒いなか、お忙しいところ、お疲れのところ平成29年度まちづくり懇談会に大勢ご出席をいただきましてありがとうございます。今年のまち懇は10月6日に米沢地区からスタートいたしました。まだまだ暖かい秋の日でございましたけど、もう冬でございます。日の暮れるのも早くなりました。この1ヶ月の季節の移り変わりは本当に早いと思うところがございます。まち懇ですけど、去年は「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということで、これからのまちづくり、どんなまちにしていけば良いか意見交換をさせていただきました。そんな皆様のご意見も踏まえまして、茅野市では第5次茅野市総合計画作りに取り組んでおります。今日はその第5次総の基本的な指針につきまして意見交換をさせていただきました、それも計画に反映していければと思っております。どうぞ忌憚のないご意見・ご発言をいただければと思います。また後段では今年度から初めての試みですけど「宮川地区の魅力って何だろう。その魅力を使ってさらに良いまちにするには、どんな取組ができるだろう」そんな意見交換をさせていただきましたと思っております。いずれにしても長い時間ではございませんので、皆様には活発なご意見・ご発言のお願いを申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

企画部長：続きましてこのまちづくり懇談会は、宮川地区コミュニティ運営協議会との共催で実施をしております。宮川地区コミュニティ運営協議会入倉会長様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

宮川地区コミュニティ運営協議会会長：皆さんこんばんは。お疲れのところ、またお寒いなかお出でいただきましてありがとうございます。日頃はそれぞれのお立場で宮川のためにご尽力いただいております。本当にありがとうございます。今市長さんがおっしゃられましたように茅野市の第5次総合計画に基づいて皆様からいろんなご意見をいただくということですけど、宮川は全地区の最後ということで、多分いろんな意見や質問が出てきて答え方がこなれていると思いますので、いろんな質問をしても大丈夫だと思います。是非どんどん質問していただきたいと思います。この間新聞で見ましたけど、理科大の学生さんのところにも今回行ったということで、理科大の学生さんから「茅野市は暗い。街灯をもっと付けてもらいたい」と話が出たと新聞に書いてありましたけど、宮川も負けないぐらい街灯が欲しいという方がいっぱいいると思います。そういう中で皆さんからご意見いただきたいと思います。運協の話をちょっとさせていただきますが、今年の5月に皆さんに紹介をさせていただきました。その時に防災と

いうものを今年切り口にしてやっという事で始めさせていただきました。皆さんの家庭には「防災かわら版」ということで2度ほどきていると思います。また防災のこと、地域のことをどんなふうに思っているかアンケートも取らせていただきました。そのアンケートに基づいて宮川のことをこれから考えていきたいと運協の方も思っていますので、よろしく願います。今日は是非いろいろと市長さん、市の関係の皆さんに問いかけていきたいと思しますので、今日はよろしく願います。

ーテーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照ー

市長：テーマに沿って意見交換を進めてまいりたいと思はいますが、時間もありますので先へと進んでまいります。前に立ち戻ってご発言をしてもかまいませんし、将来像等についてのご発言でもかまいませんので、どうぞお気軽にご発言をお願いいたします。

まず「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということで、一番下にあります「空家や公民館を活用した高齢者や子どもの居場所づくり」ということで、ご存知の方もあるかと思はいますが、茅野市では支え合いの仕組みをつくるのに各「層」で表現しています。茅野市全体を第2層と呼んでいます。サービスセンターのある4地区、これは中学校区と言っていますけどこれが第3層。そして10地区、コミュニティセンターを第4層。今までは第4層までの仕組みの中で複層的に支え合いをしてきました。これからの10年はそれを第5層、第6層で。第5層が区・自治会です。そして第6層というと大きい区だと隣組のような単位でないと、身近な支え合いとはいかないだろうということで、区・自治会あるいは隣組・町会という単位での支え合いの仕組みが必要になってくるだろうと、その中でも特に公民館を活用とした支え合いというのが取り組みやすいのではと考えております。この件につきまして皆様からご発言ありましたらどうぞ。

最初はしゃべりにくいかなと思はいますが、このことで先行して取り組んでいただいている両久保区さんに公民館を使った「子どもカフェ」の取組も始まっているようでございますので、若干お話をいただければと思はいます。

市民：うちの区では高齢者の皆さん達が元気な時間を長くしたいという希望がありまして、それに一番活用できるのが区民会館ではないかなということで、そういう発想でスタートしております。今は週に2、3度は区民会館を区の役、時間の空いている方をお願いをして開放という形でカラオケだとか子どもカフェの運営、健康寿命延伸プログラムといいまして、元気な高齢者がもっと元気になって長寿を達成していただけるようなことを取り組んでおります。ただこれをスタートしたからといってすぐに結果が出るということではなく、うちの区としてはとりあえずはやってみてその中の課題を区民会館の講堂だとかスタッフのボリュームのこと、子供に対する安全や高齢者に対するケアを考えつつ、今は7月から数か月経ちましたけど運用しているような状態になっています。おかげ様でリピーターといいますか、利用していただ

ける方は少しずつですが増えているような気がします。来年に向かってもう少しボリュームアップを図るためのスタッフや環境面の検討を区の方と合わせてやっていきたいと考えています。主に活動しているのが、まちづくり推進委員会というメンバーで各委員会の方から代表を出していただいたり、熱意のある方達に協力をさせていただいたりしてやっているところでもあります。現状始めたばかりでこんな話しかできませんけど、よろしくお願いします。

市長：急に振りましてすみませんでした。今両久保区さんの例でもありますが「言うは易し、するは難し」だと思っています。区・自治会の役の成り手が無い等と色々な区でお聞きします。そういった区の役や行事を軽くしていこうという流れとある意味相反する取組になるかと思えます。ポイントは今までの区の役という形で担ってもらおうということではなくて、ボランティアという表現にはなるかと思いますが、お互いにできることを提供し合おうというようなイメージが構築できるかどうかだと私は思っています。国の方でもこれからの福祉は「我が事、丸ごと」と。あらゆる生活の課題を丸ごと自分のこととして取り組んでいくという方針を打ち出しています。しかし専門の方と話をしても、形はできると思えますけど実際に動かしていくとしたら、理屈ではない心意気と言いますか、そういうものが無ければ駄目だと思っています。その心意気プラス区あるいは行政がどんなお手伝いができるか、関わっていけるか。その知恵を出していかなければいけないと、そんなことを第5次総の支え合いという中ではより具体的な取組として展開をしていければと思っています。ご発言をどうぞ。

市民：今両久保さんのお話を聞いて素晴らしいなと感心しました。今年は安国寺の場合「高齢者クラブ」さんも役が大変だということで、一時は存続が危ぶまれたときがありましたけど、その後受けていただいた会長さんが、一生懸命アイデア的にやっていただき、あんまり役員さんは無理をなさらずみんなが楽しめるような企画を出していただいて、今日の新聞にも載っていただいたとおりですが、みなさん喜んでいただいて何とか続けております。区の役員も、皆さんできる方なんですけど、受けていただけないというのが実情でございます。ここで区の選挙もありますけど、3年後の区長さんまでは何とか決めましたが、これから大変な時期が来るのではと思います。安国寺も寒天屋さんが9軒ぐらいありましたけど今は1軒しかなくなる、そんな時代でございます。おかげ様で今年5軒、家を建ててくれた方がおりまして、いろいろ問題があって区に入って貰えないということが続いておりましたけど、今年は5軒全部の家に行きまして、「是非区に入っていただきたい」ということで納得をしていただいて、区会でも「安国寺に家を建てて住む方は入区をすること」と決めまして、皆さんで安国寺を良くしていこうということでやりました。区民の運動会のときに、5軒の新しく入っていただいたお家に招待状を渡しまして、3軒の方が来ていただきました。区民の皆さんの前で家族を紹介したりして、非常に良かったと思います。安国寺は山があり、坂があり大変なところですが何とか繋いでいけそうでございます。よろしくお願いします。

市長：大変お疲れ様でした。でも5軒の方が入区していただいて、おめでとうございます。この入区の問題は長いテーマでございまして、どうこれに取り組んでいけば良いかとありますが、基本は人と人ですので、やはりいかにウェルカムでお誘いするか、また区に入るとこんな良いことがあるよと示していけるかということだと思います。来たら当たり前前に区に入るという感覚のない今の若者の皆さん、特に都会の方から来たらそういった仕組みはありませんから。田舎にきたら「こういう繋がりがあるから、区に入って一緒にやれば楽しいよ」と、是非そういったアプローチをしていただければと思います。

次に進めてまいります。戻ってご発言をいただいてもかまいませんのでお願いいたします。2点目が産業ということで「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」でございます。一つが茅野市の財産で観光を切り口としたまちづくり、ものづくり産業を更に進めていく。そして公立諏訪東京理科大学と連携したまちづくり等がこれからの10年では特に必要になってくるのではないかと考えています。これを見ると「農業がないじゃないか」というご発言もいただきました。これは農業がないということではなくて、特徴的なものを挙げたということでございますので、ご理解いただきたいと思います。茅野市の農業を支えているのは、70代の皆さんだと思います。10年すれば90歳に近い80代の方も多くいらっしゃるのかなど。その中で茅野市も農業振興ビジョンを作っていますが、よほど大胆な取組を展開していかないと心配なことになると考えています。そんなことも含めまして皆さんからご発言どうぞ。

例えば宮川地区としたら理科大の学生とどんな連携ができるかと言われたらどんな風に思います。理科大の学生さんはアパートに下宿していますか？横内や上原の方にはいるんですね。この間懇談会の中で、理科大の近くにもかなりアパートはあるんだけど、近くには買物するところがなくて食堂もない。住むには近くにお店があって買物もできて、バスは年間2千円で乗り放題で理科大にも行けるし他のバスにも乗れるので、町場の方にアパートを借りる方が人気がある状況でございます。是非、宮川地区の皆さんにも理科大の大学生と良い交流をしていただければと思います。お考えがありましたら、今日に限らずご意見をお寄せいただきたいと思えます。

進みます。3点目の「21世紀を生きる力を育む仕組みづくり」ということで、やはり何のために教育するのかと云ったら、時代を生きていく力を育むのが教育だろうと考えています。そんな観点で茅野市では様々な取組をしておりますけど、さらに進んだ仕組みづくりをこの10年間でしていきたいということで、まずは教育長より補足説明、その後校長先生あるいは係の先生から現状をお話していただければと思います。

教育長：私の方からは簡単に説明して、今日二人の校長先生が来ているので、具体的な生の話を聞いていただこうと思います。一番大切なことは学校教育が地域に信頼される、それが原点だと思います。地域と共にある学校、地域に助けをもらうだけでなく学校からも地域に出て行って地域づくりと一緒に促していただく、そんなことが一番の理想です。現実はまだまだ遠くて一步一步確実にやっつけていこうと思います。茅野市の教育の特色と云いますか、他の各地

と比べたときに違っている点で一つは幼保小連携教育です。よく幼保小連携教育と言われますが、建物は別々になっていますが、教育の内容で繋いでいるというやり方をしています。保育園から小学校に上がったときに、よく学校に来たくなるとか不登校になるとか、上手くない例もありますが、茅野市の場合は極めて少ない数です。小学校と中学校を繋いでという点も建物は確かに別々ですが、内容面では繋いでいます。小学校での教え方と中学校での教え方があんまり違うので中学校に行くと戸惑ってしまうという、その差をなくすということを中心に長峰中学校、宮川小学校、金沢小学校で一生懸命取り組んでいます。保育園から小学校と同じように、小学校から中学校というところでつまづいている子供が極めて少ない現実です。そうした中で保育園、幼稚園、小学校、中学校を「読書」という1本の糸で繋ぐということに力を入れています。一昨年には宮川小が文部科学大臣賞をもらったということもあり、かなり頑張っています。こういう大きい枠の中で、一つは英語教育に力を入れております。平成32年に国の方針で英語を教科化します。小学校5、6年生で週に2時間、算数・国語・社会・理科に続く教科となります。そのときには小学校6年生が中学校に入るときに700の単語が分かっている力をつけます。そのときになって始めても遅いということで、3年前の今年から準備を開始しました。もちろん先生達も英語の専門の先生が付くかということ、今のところ付くということは国では一切いっていません。普通の担任の先生が英語を教えなくてはいけない、そういう状態です。そこで今年台湾の英語教育の専門家である女性の先生を茅野市に来ていただいて、子供達が英語を好きになると同時に先生達の力をつけようということでやっています。宮川小は来週の月曜日に来るそうです。是非、宮川小に見に行ってください。ものすごい英語教育をやっています。私も最初のときはついていけないけど、もう全く何をやっているか分かりません。ものすごい速さで英語をしゃべる、それに対して子供達はどんどん答えています。それからICT教育も国の方針で平成32年度から本格化していく訳ですが、茅野市の場合3年早めということで、今年全小中学校がテレビ会議でお互いに交流できるということを11月に完成させます。タブレットの方も出来るだけ各学校に配っています。来年は大型テレビと更にタブレットを学校に配って、ICT教育を本格的に始めていこうと思っています。英語教育もICT教育もグローバル化あるいは情報化と言われる中で、どちらかと言うと脳みそに近いですけど、一番人間にとって必要な「実際に土をいじって自然の中から感じる、具体的な物を見る中で考えていく」、そうしたときに縄文科という教科が1万年以上も平和で続いた争いの無かった社会をもう一度自分達で考えることを通して、人としての大切な生き方、具体的な物を通して見ていくことを大切にしていきたいなと思っています。ただ多くの課題があって、皆様のご意見お聞きしながら、また教えていながら一つ一つ解決して、より素晴らしい茅野市にしたいと思えます。中学・小学校の校長先生が来ていますので、簡単に補足をお願いします。

宮川小学校長：今教育長先生からお話があった中から何点か実際にやっていることをお話をさせていただきます。最初に幼保小、小中一貫と繋がっている仕組みがあって、小中一貫教育の中では教え方の授業感を揃えることを大事にしまして、教師が一方向的に教えたものを子供が

覚えていくという授業ではなくて学び合い、子供達の力で子供達が聞き合いながら分からないところは分からないと聞けて、そういうことを進めていこうとやっています。幼保小についても単なる交流活動の連携ではなくて、子供達の支援や向かい方についても連携したいということがあり、一日保育士体験というものを学校の職員がやらせてもらい、一日保育園に行って保育士の方達と一緒に過ごしながら子供達との関わり方を学ぶことがたくさんあって、学校でも活かしていきたいなとやっています。一緒に職員会もやっていて意見交換をすることも大事なことに繋がっています。小学校に繋ぐところで、保育園の「遊びからの学び」ということを小学校の生活科を中心とした活動と繋げることでギャップをなくそうと幼保小の連携を進めています。英語教育の話がでましたが、今まで5・6年生がやっていた英語はALTの先生方を中心に担任はお手伝いだったり、ちょっと傍観者だったりでしたが、今度は実際に担任の先生がやっけていかなくてはいけないということで、ALTの先生と茅野市では台湾からの先生の指導を受けながら、2学期には担任が自ら指導するというのを始めています。台湾の先生に教えていただきながら、相談しながらやらせていただいています。小学校でするので英語の専門はおりません。英語の免許を持っている先生も本当にわずかで、学校に一人いるかの状態でみんな苦手としている先生が多いんですけど前向きに取り組んでいて、参観日で授業を見てもらったりと試行錯誤しながら、子供達も職員も主体的に関わることを大事にしながらやっているといます。

長峰中学校長：宮川小学校を含め本校の教育活動を支えていただけて感謝であります。本校は特に42.195キロの競歩大会を今年で26回目になる訳ですけど、その折には300名近い保護者の方、地域の方々のお支えがあって成り立っています。その中で子供達は自分の限界に挑戦して、やりきった満足感を味わい、それが更に生きる力へ普段の学校生活に反映されているのかなと感じております。先程宮川小学校長の方からお話がありましたが、小中一貫教育が今年スタートした訳ですが、場所は本校と宮川小は御柱街道沿いで近いのですが、金沢小がちょっと離れています。では何を一貫してやるのかというのは、先程も触れましたが具体として「良い授業をやろう」と。子供達に力をつけるためには、良い授業を私達がやらなくてはいけない。良い授業を作るためにどういうことを3校の先生方で共通していくかとなりますが、まずは子供の見方を変えていこうと。私自身も反省しますが、この年代の授業というのは教師が一方的に知識を教えて子供達がそれを覚えたり身につけたりする授業が主だったのですが、それはそれで一定の成果はあるのですが、この新しい時代に求められている「考える、自らの力で解決する、それを他者に分かり易く表現していく、未知の状況に遭遇しても自ら切り開ける」、そういう向き合い方「生きる力」を付ける授業にしていこうとするスタートに、まずは子供の見方を考えていこう。もう一つ大事なものは教師の授業感。保護すれば一方的に教えそうになってしまうのを、子供の力を信じて子供の持っている可能性や大きなものを引き出すような授業に変えていこうということで挑んでいます。先週の11月10日にも本校をパイロットスクール的な意味合いで研究を進めていますが、授業改善にはいろんな考え方がありますが「豊かな学び合い」

その基になる「共同的な学び」をご指導する大学の先生、国際的な優れたリーダーの人であります。指導を受けながら茅野市の先生が全部集まって本校の授業を見てもらって、教師の向上を図るためにつくしていこうという会が行われました。その中で本校の空気が確かに少しずつですが変わってきています。茅野市の基づいている「やさしさと活力」ということがある訳ですけど、その点で子供達が素敵な姿を出てきております。そういったことに勇気をもらいながら、そういった授業開拓を一つの柱として小中一貫教育を進めようとしているところでもあります。

市長：ありがとうございます。具体的に小学校・中学校での例をお話いただきました。皆さんからご発言をいただきたいと思います。

市民：学校教育はやっぱり限界があるのかと思います。やはり家庭での教育というものをこれから本当に考えていかななくてはいけないことだと。学校に任せれば全てやってもらえるというような考え方に深く陥っている家庭も多いような気がします。その辺のところに切り口を持つのも大事なことじゃないかと思います。

市長：その通りだと思います。一番のベースは家庭であって、地域であってということで。先程「考える力、自分から解決する力をつけないといけない」とおっしゃいましたが、私らはそれを当たり前にやってきました。パーフェクトな自分ではなかったですけど、遊びの中から自らトライして失敗して、だけど考えて先輩から学んで、という中で自ら考えて解決していくという力を当たり前につけてきたと思います。それが今は、それを教育と一緒にやらなくてはいけないということ自体がおかしいと思います。教育長、その家庭で力をつけるということで何かございますか？

教育長：今、どんぐりプランの策定を進めていますが、家庭や子供の支援と同時に家庭の教育力をつけるということ、それは今までの発想じゃ駄目だと思います。何か上手い仕組みがないか考えています。ただ今の子供が置かれているのが6人に1人は経済的貧困があると言われていて、それ以上に精神的な貧困というものもあって、実際に子供達が一人でご飯を食べているという家庭もかなりあります。家庭教育と言ったときに、もっと原点的な一緒にご飯を食べるとか、一緒にお風呂に入るとか、朝靴を揃えるというところから何とか考えていかれるような仕組みにしていこうとしています。

市長：地域の皆さんにもご参加をいただきたいと思います。

市民：結局、「個性を伸ばす」といった方向に教育はシフトしてもらえたら。確実的な人間を作っていくてもどうなのかなと。

市長：ありがとうございます。先程中学校長も言われましたけど、この時代の波にはそういった部分も大事にしていけるということで、縄文科の教育の取組も正にそうかなと思います。縄文科の教育には正解がないんですよ。10人縄文科に取り組めば10人それぞれが正解で間違っていない、そういう取組だと思います。そこから個性というの、それぞれの考え方があ。例えば土器を作ったらそれぞれの作り方があり、良い悪いはなくお互いに認め合うということにも縄文科教育は役立っているのかなと思います。

教育長：これからの教育は、文科省が言う訳ではないですけど、いかに一人ひとりが個性的な光るものを持っているか、それを作ってやらないと生きていけないと思います。長峰中も宮川小も明日調べ学習の発表があるのですが、非常に個性的な作品で一人一人光るものが育ってきています。更に進めていきたいと思います。

市長：他にありましたらどうぞ。

市民：保育園の問題なんですけど、今みどりヶ丘保育園がもしかしたら閉鎖になるといった話が出ています。耐震の問題等あると思いますが子供の数が減ってきていて、園がなくなっても他の園で補えることだと思いますけど、これから子供が増えていけば良いという茅野の考えがあるのに保育園を減らすというのは、これから減っていくということを認めているのでは。これから増えていくために建て直しをして、より良い教育、保育園もできれば良いと思いますので、できれば存続していただければと思い、一言言わせていただきました。

市長：この問題につきましては、宮川地域の皆さんにはご心配をおかけしているかと思いますが、そのことにつきましては検討委員会を立ち上げさせていただきまして2回開いており、しっかり議論させていただく中で位置づけていきたいと思っています。一つの考え方として、保育園をどうするかということになると思います。おっしゃる「子供を増やしたいなら逆行するんじゃないか」ということ、確かに一つの見方をすると現にある建物を活用すれば良いのではとなりますけど、長期的に見るとそこを維持・管理していかななくてはいけない、そういう中でどういう形が良いのか。当然子供が増えたときにきちんと受けていく環境は作っていかななくてはなりません。それをどういう形にしていけば良いのか、それも含めて皆さんとしっかり議論させていただきたいと思っていますので、今日お見えになられている中にも関係する委員の方もいらっしゃるかと思います。また保護者会としての関係もあるかと思っていますので、しっかり詰めていきたいと思っています。ただ目指すところは、茅野市においては待機児童ゼロ、今までもそうですしこれからもそうしていかななくてはならない。なおかつ、保育園という環境の中でより良い保育をしていくためにどうあれば良いのかと進めてまいりますので、そこはご理解いただければと思います。

さっき英語の話が出ましたけど、昨日副市長が永明小学校に行ってきましたのでホットな感想をお願いします。

副市長：台湾って皆さん中国語じゃないかと思えますけど、実は英語を母国語のように子供達がスラスラしゃべる国なんですね。どうしてこんなに台湾の子達が英語を話せるかと、私も去年台湾に行ってそこに置かれている国の事情もあるんじゃないかと思えますけど国全体で英語、要するに台湾だけじゃなくて国際的などに行っても一人の人間として生活していくためには英語だと、国を挙げて取り組んでいます。そういった取り組み方の違いはあるかと思ったんですけど、英語とは小さいときから取り組むのが大事だなと。それも我々がやっていた主語があって述語があって、という頭で覚えるのではなく体というかアクティビティを使ってやるのが生きた英語になるのかなと感じました。台湾から来た先生ですが、私が見に行ったのは永明小の5年3部の子供達でした。グイグイと先生が引っ張って行って、何回も授業を受けていますのでやり方も子供達覚えていきます。一つやったのが、いろんな絵と違う色を見せて、この絵とこの色を組み合わせると何色のどういう形ですか？と。「ホワイト ハート カラー」とか。パッパッと見せていくんですけど、台湾の先生と日本の先生と一緒にうまく取り組んでフォローしながらやっているなと感じました。私が見に行ったときは本当に先生がグイグイ引っ張って、子供達がそれに負けないぐらい受け答えをして、これは頼もしいなと感じてきました。宮川小も月曜日ですが、百聞は一見に如かずです。是非ご覧いただければと思います。

市長：4点目の「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」と5点目の「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」ということで、皆さんからご意見いただければと思います。

市民：「豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」という中で、私は今消防団に入っており意見があります。宮川地区には全16地区ございます。しかし消防団の数は11地区のみです。消防団が無い地区がある訳です。そうした中で、決して若い人がいない訳ではなく、同じ世代で同じ活動をしたと思っている若い地域の方がいます。確かに一つ消防団を立ち上げるには予算と費用と時間がかかります。無い地区、例えば4地区で区長さん達が話合っって合同で良いので一つ立ち上げて、同じ世代の若者が同じ活動をして同じ基盤づくりだとか、情報を交流できる場ができれば良いなと思っております。それに対して市長さん方はお金もかかる面もありますけど、そういった方向で動いてもらえれば少し活性化になって、消防団がより良い活動ができるのではと思います。是非、よろしくをお願いします。

市長：ありがとうございます。消防団、あるいは団員不足は大変重要な部分だと思っておりますし、また消防団の活動というのは防火・防災だけでなく地区におけるコミュニティに根付いた活動。そのことによって村のことを知っていく大きな社会参加の活動だと思っております。どん

どん活躍していただきたいと思います。その中で今の話でございませう。それだけ宮川地区は元気があるということだと思ひますが、今回のまち懇では「今の定員が多すぎる。是非削ってくれないか」というそんなご意見をいただきました。基本的に消防団の団員数は条例で決まっています。今950数名だと思ひましたが、それを必要に合わせてどうしていくかという議論と同時に、全体の数は変わらなくてもある分団は今100だけど80で良いと。そうすると宮川はもっと増やしたいという場合、その20を宮川に持っていくということは消防団の中で決めていくことができますので、それは分団長会を通して、また消防団だけではなくて区の意向もあるでしょうから区長会の中で決めていっていただきたいとお話させていただきました。今のご提案も実際にどういう形ができるのか、一つのところで立ち上げることも可能ですし、複数の隣同士の区で一緒にやることも可能だと思ひます。宮川分団というのは長峰区が一番最近できた区でございませう。それも含めて、当然それには区が主体になりますけど市としてどんな支援ができるかということも必要だと思ひます。区も交える中で、また分団の中で状況をしっかりと話していただき、そこに市も加わっていきたく思ひますのでよろしくお願ひいたします。

市民：ありがとうございます。

市長：他にございませうか？

それではここからは「宮川地区の魅力とその活かし方」も含めて意見交換をしてまいりたいと思ひます。この第5次総に關係する部分に立ち戻ってご発言いただいても構いませんのでよろしくお願ひします。資料の説明をお願ひします。

宮川地区コミュニティセンター所長：お手元の資料1になります。事前にくいつかの魅力をお出しいただきましたので説明をさせていただきます。1番と3番は内容が似ていますが、宮川茅野区は「非常に恵まれた立地条件にある」ということでご意見がでました。生活に必要なある程度のもので全て揃っている、なかなかこれだけのものを地区を探してもないんじゃないかとご意見が出ました。ひばりヶ丘区さんに関しては「お子さんが生活するに必要な施設がそろっているので生活しやすい」というご意見が出ました。2番は博物館になりますが「前宮周辺、鎌倉街道と前宮」ということで今市と一緒に事業を進めている最中ですが、歴史を使ったまちづくりが考えられるのではないかと。4番は向ヶ丘区さんですが「春秋の向ヶ丘入口の落葉広葉樹のトンネルと県住前の銀杏並木」ということで、非常に季節で見ていただいております。またここにはないですがあと2点、新井区さんですが「新井温泉」これは温泉があり住民の憩いの場になっている、また「新井公園」が子供達の生活する中で大切な公園になっているというご意見が出ています。本日はお見えの皆さんからも自分達の地域の魅力をお出しただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

市長：なぜこんなテーマをしたかと言ひますと、今茅野市ではシティプロモーションと言ひま

して茅野市の魅力をどう発信していくか、観光にも絡みますし企業の誘致とも絡んでまいります。そんな取組を進めています。当たり前ですけど、茅野市の魅力を構成しているのはそれぞれの地区の魅力でありますし、地区の魅力が集まって茅野市の魅力にもなる訳です。またそこに居る方は当たり前で、なかなか価値・魅力が素晴らしいということ認識されていなかったり、もったいないと思うことがございます。宮川地区の場合、東西南北と長いので自ずとひとくくりにはできない部分もあると思います。安国寺の前宮のエリアがあって、宮川茅野を中心としたエリアがあって、丸山・田沢の田園地帯があってと、ひとくくりにはできないと思いますけど、それぞれに素晴らしい魅力があると思っています。そこには景色や物だけではなくて人の絆であったり、そんなことも含めまして「こんな魅力があるよ。」「こんな風に活用したら面白いのではないかい。」そんなご発言をいただければと思います。

市民：地域ということで宮川に限ったところではなくてお話させていただきます。今日、第5次総合計画の説明をしていただきました。茅野市全体が魅力ある地域だと思っています。本当に他所の地域から見れば羨ましいと思うぐらい、様々な文化面でも自然環境でも誇れるものがいっぱいある。そんな中で率直な意見を言わせてもらおうと、様々な方針であるとか仕組みだとかが組み立てられてありますが、では茅野市はどこに向かっているのだろうか良く見えない。ですから総合計画が魅力的なものに見えないんです。それぞれに落とし込んでいきますが、「核」になるものが何かあるともっと魅力的で、要するに一人ひとりが「このために我々はやっているんだな。こっちに向かっていくんだな。」という「核」が欲しいと思います。

市長：具体的に言うと、例えば？

市民：例えばですけど、地域というのはある面では使命を持っていると思います。例えば、この諏訪・茅野の地域は八ヶ岳を治めて、かつては自然豊かな土地で、そんな地域です。その地域がもっている使命はやはりあって、最上流にある訳ですよね。ここからはきれいな水を下流に流していく指名があると思うし、土地もそうです。健康な土地で健全な植物が繁殖して、農業も安全な農法が展開されて、下流に影響を与えないような環境作りをします。先程「道路がデコボコで起伏が激しくて」というような話がありましたけど、この地はそれが魅力ですよね。今はグローバル化したものの中では、どこへでも行けます。結構奥まで観光に入ってこれますよね。観光という意味で考えていくと、間違えてしまうとそういった魅力を殺してしまうと意味がないと思います。そういう意味では健康都市で、長野県知事も「長野県は日本一の健康長寿の県にするんだ」と言っています。茅野市は世界一の地域にすれば良いと思います。そんなふうにご提案したいです。

市長：ありがとうございます。なかなか一つでということも難しいでしょうけど、分かり易さは確かにあると思います。長野県に先んじて健康長寿日本一を目指す、それも一つ大事なこと

だと思います。健康というのは全てに一番の最重要課題だと思います。まちづくりで言うと最上流に位置することで「暮らしから産業から全てにおいて、最高の品質の環境にする」、例えばそういうことですよね。そういったことも考えられるかなと思います。これからそれぞれ分野別の中の計画を作っています。その中に謳いこまれてはくるかと思いますが、それを何か一つのポイントを前面に出してということですよね。これも参考にさせていただきまして、その議論もさせていただきます。

市民：質問なのですが、国道20号線茅野市内に道の駅構想があると噂を聞きました。どの程度の話なのか教えてください。

市長：道の駅構想ということではなくて、ご案内のように中河原の4車線化をしています。これをやっていくときに道路だけではなくて周辺で手のついていないところもある。そういったところも一緒に整備をしていかないと虫食いみたいな状況になってしまうということで、そういった整備ができるかどうか国の方とも話をしている状況でございます。

市民：わかりました。

市長：全体通しまして第5次総のことで良いですし、地域の魅力のことで良いですし、宮川地区それぞれの区における課題でも構いません。どうでしょうか。

市民：今日ご説明いただいた総合計画は行政の経営計画ですという位置づけになっておりますので、今日お金を使う方の話についてはいろんな具体例を挙げて、全てやって欲しいと思います。ただ行政の立場ではいかに財源があるかないか、今日はその財源の話については特にご説明されておられません。この間の総合管理計画によると「構築物とか道路とか河川とかが老朽化してきていて、今までの維持費の何倍もお金がかかります」というような説明が片方ではされていて、これからの10年夢の持った計画を作っていただくことは必要だとは思いますが、この計画の中に収入・財政をいかに効率良く使ってお話いただいた施策を展開するかは行政の手腕だと思います。その財政面については総合計画の中でどのように検討されて、織り込まれていくのかご説明いただきたいと思います。

市長：大事なポイントです。第5次総の中でどこにそういったものが入ってくるかという、下にございます「行政経営」となります。この行政経営の計画も今作っております。茅野市のご案内にもあるかと思いますが、財政構造改革という取組を3年間させていただきまして、一言でいったら「身の丈にあった市政・財政の面から見てのまちづくりをしていこう」ということで、一つの目標として茅野市には全ての基金を合わせて40億円ほどある訳ですけど、目的以外の基金は取崩さずにやりくりをやっていこう、そういう取組をさせていただきまして、

3年間で基金は取崩していません。その中でおよそ財政規模で言いますと220億ぐらいになりますけど、その記実を守っていきたいと。そして基金として30億円はキープしていこう。それはやってきております。今作っております行政経営計画の中でもそこは枠を決めて、その中で優先順位を付けてやっていく、そんな計画を作っております。またできましたらパブリックコメントもいたしますし、市民の皆様にもご説明をしてみたいです。そうは言っても税収が落ちてくる中では、そのことは守っていかなければいけないだろう。それとプラス維持を図るということもございます。そのためには産業を振興していかなければいけないということで、先程の「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」ということで、企業誘致であったり観光産業を活性化させようということによって税収のアップを図っていく。それと「協働のまちづくり」をしていくことでお互いに支え合う仕組みの中で、同じ福祉にしてもこれから福祉にかかるお金は増えてまいります。茅野市では70億円ぐらいが保健・福祉の分野で使われており、市の財政の3分の1がそこに使われている。それがこれから高齢化で更に膨らんでいきますが、同じ投資をする中でお互いが支え合うことで福祉の向上を図っていく、そんな取組もしてまいります。そうして行政経営をしていますので、具体的には行政経営の計画で財政面は取組んでまいります。

市民：今月の広報11月号に平成28年度の財政等の報告書が出ていたような気がします。市債が一人当たり49万円ぐらいかかっていると思います。貯金が今言われたのが一人当たり5万円の収入である。逆に言うと44万、45万が一人当たりの市債になると思いますけど、確か図面を見ますと市債が9.2%か9.3%だったと思いますが、これから市債は膨らんでいくのでしょうか。それとも減らされるのでしょうか。

企画部長：市債の今後の推移なんですけど、今は市債がある程度増えているのは数年前に茅野市土地開発公社がありまして、そこで一定の借金を抱えていたんですけど、それについては市が責任を持って整理しなくてはならなかったため、土地開発公社の50数億の借金を市が引き取って整理したということもあって増えております。ただ今後でありますけど市債については残高は減っていく局面にあります。一定の事業で市債とするものもありますけど、市債については繰り上げ償還をして、借りるより返す時の方が多くなるような状態でプライマリーバランスの黒字化を図って減らしてきましたので今後も減っていく形にはなります。

市民：その図面のときに、できればバランスシート等も発表していただくともっと分かり易いと思いますがいかがですか。

企画部長：茅野市の会計だけでなく、いろいろなものが連結したバランスシートは作っております。市民一人当たりどのぐらいの資産があって借金があってというバランスシートも作っておりますので、それについては分かり易い形で広報に公表したいと思っております。

市民：ありがとうございました。

市民：身近なところで3点ほどお聞きしたいと思います。茅野区は周辺部を中心に近年アパートの関係や集合住宅・団地等の造成が民間の事業所を中心に進んでいますが、その中でゴミの集積に関して、やはり単位が3軒・5軒・10軒というように年間増えていきますと1ヶ所が非常に収納しきれない部分があります。事業所によっては各敷地内にご自身の方で集積所を設けて独自にやられている所もありますが、戸建の場合はそういうことがございませんので、可能であればそういう開発をやるときに、敷地範囲内でゴミの集積ができるようなスペースを設けるようご指導していただければと思います。それとゴミステーションの関係は地域・区の関係が主体になって求める部分がありますが、昨今の状況では厳しい部分があります。近隣の中の公共の用地で、例えば1坪でもお借りできるようなところがあればご相談にのっていただければと思います。あと「公立諏訪東京理科大学との連携したまちづくり」に絡むか分かりませんが、私は米作りをやっておりまして、その中で堰の関係の管理等、組合員の皆さんも含めてやっております。組合員の皆さん、高齢化が進んで体的にもおぼつかない部分があるのですが、例えば草刈りにしても堰の管理にしても精力的にやっていただいている状況です。ただ一点、私有地でもないそれに付随した公共のものは手を掛けてやっていますが、全くの公共関係、例えば宮川の土手沿いの関係の管理は非常に厳しいものがありまして、過日も事務所を通じてお願いしたところはねられる状況です。その中で地元での管理者、堰の当番も含めて対応が困難な事例もあります。そこで「大学と連携した」に絡むか分かりませんが、大学に来られている生徒さんは都会の方も多いと思いますので、ボランティア的なものを大学に設けていただいて、1年に1回でも、草刈りをしたことのない都会の方もおいでになっていると思いますので汗を流していただいて、地域と連携をするような機会を設けるような形を取っていただければ非常に助かるかと思いつきました。連携というと難しい博学のような話になりますが、人手間と汗の関係での連携が可能であれば、1年に1回でも草刈りの経験を積んでいただいても良いのかなと思いました。そういう窓口を大学側に設けていただければ、交流の手立てもあるのかと思いました。

市長：後段の方からですけど、大学の方に「地域連携総合センター」という窓口ができて、地域貢献というような一つのコミュニティとの連携というのでも取り組んでいくことになっておりますので、そこを窓口にご相談いただければと思います。多分ストレートに「草刈りに来い」と言っても来ないだろうなと思います。やはりそこに地域の方達「宮川のおじさん達と地域の話しよう」というような中で連携を作っていく。そこで地域のことでも知ってもらい、「それじゃあ、一緒に草刈ってくれないか」みたいなノリでいけば、そういうこともありうるかと思います。学生達いろんな好奇心は持っていますので、その取組方に知恵を出せば地域の皆さんと連携したいという学生もたくさんいますので、そんな取組方で進めていければなど。

私共から理科大の方にそんな事情等のお話はさせていただくことは、やぶさかではございませんけど、その件につきましてはお願いいたします。ゴミの方ですけど、今おっしゃられたのは戸建の新しい住居ということですね。一定の規模のアパートになりますと業者の方がゴミを集めて、という所もごございます。そうでないところもごございますけど、先程の入区にも関係しませんが「一応、区に入っている方がそこを利用しているんだよ」ということから、「是非皆さんも区に入って、一緒にこの取組を維持していきましょう」ということが必要になるかと思えます。新しくできてくれば、当然新しくステーションを作らなければいけないということも出てくるかと思えます。現に市の空き地が少しあってそこにゴミステーションを、という例も市内にはあります。ご相談いただいて「新しくここにゴミステーションが欲しい」という場合、そこがたまたま茅野市の土地であればご利用いただくことは問題ではないですので、具体的にご相談いただければと思います。

園長：宮川第二保育園で勤めておりまして、田沢の魅力についてすごく良いところだと感じています。子供達が一人でも多く茅野市に残ってくれるため、茅野市の良さ・地域の良さをもっと子供達に語って欲しいと思っています。例えば田沢というところは本当に古い地区で、八ヶ岳が綺麗で清水も出るお家もたくさんあって、水も美味しく空気も美味しく、平らな土地が多い。坂本養川という出た水を田んぼに引いてくださった方や、藤森民雄さんみたいな若い世代の方もいらっしゃいます。地域の良さがそれぞれの地区にたくさんあると思うので、英語科とかの部分も大事ですが、子供達に本当に茅野市に残ってもらって茅野市の良さを感じ取れるような教育も。それは地区でも大事でしょうし、お父さんお母さん達にも自分の住んでいるところの良さを感じることを、公民館でも一緒に応援してやっていただければ嬉しいと思っています。宮川第二保育園にいますけど、本当に地域の方が保育園を支えてくださって、その度に地域の方のお世話を受けながら優しさをいただいたり、いろいろなものに触れる機会を地域に作っていただき支えられています。是非みんなが茅野市の良さをもう一回振り返ることを、市の方でも皆さんで考える機会があればと思っています。「地域の魅力とその活かし方」の一つとして提案させていただきました。

市長：ありがとうございます。まさに良いものがいっぱいあるんですね。問題はそれをどう活かすかということでありまして、是非それを地区であったり区・自治会であったり取り組んでいきたいと思っています。それには当然市の方も働きかけをしていきますけど、そこに住まわれている方がそのことを誇りに思って大事にして。今お話いただきましたように水が田沢区さんは各家庭にふんだんに来ていますよね。選挙のときに茅野市中を隈なく回りましたので、地区の良さを自分なりに把握しているつもりですけど、そういったものをどう活かすかだと思います。観光まちづくりにも繋がりますけど、地域おこし協力隊が今13名で新しく来る2名も含めて15名が地域の魅力を発掘してそれをどう活かしていくかというような取組をしています。田沢区さんには地域おこし協力隊はおじゃましたことがないのかな。また言っておきます。い

ろんなアイデアを持っていますので、それをどう使っていけば良いのか、一緒になって取り組んでいきたいと思います。そんな機会を投げかけてもらえますと、一緒に相談して話合いの場を持ちたいと思います。その面で茅野市では柏原区・笹原区・槻木・金沢区辺りが先行して地域おこし協力隊の皆さんと意見交換をしています。それぞれの地区の魅力を共に発掘してみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

よろしいですか。いろんな話をさせていただく機会にご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願いいたします。短い時間ではございましたけど私達の考えを聞いていただき、また皆様からの熱いご意見もいただきました。これからの計画の中に反映していくもの、すぐにでもアクションを起こさなくてはいけないものがあるかと思います。いずれにしても目指すところは「やさしさ」と「活力」あるまちを作ってまいりたいと思います。これからもそれぞれのお立場でご意見をいただけますことをお願いを申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。今日はありがとうございました。